

第10期淡路地域ビジョン委員会第7回全体会（質疑応答）

日 時：令和3年12月26日（日）14：00～16：30

場 所：洲本総合庁舎3階会議室

参加者：ビジョン委員21名、亀井県民局長、坂本県参事、吉野室長、
事務局（大橋、福榮、正司）

（1）内容

- ・ 新しい将来ビジョン（新全県ビジョン・新地域ビジョン）の説明
- ・ 清水真澄委員によるパラリンピック報告
- ・ 第10期ビジョン委員会分科会中間報告

（2）新ビジョンに対する質疑応答

（ビジョン委員）

質問というより意見だが、2050年のビジョンを考えたときに全県・地域ビジョン両方にいえることは、女性の活用についてきちんと述べられていないということ。兵庫県も女性の活用についてはあんまり進んでいないので、ビジョンを通して変えていく必要があると思う。

2つ目は、やがて淡路島の人口は7万人になる。いつまでも限界集落は維持できないので、行政が責任をもって主導していただきたいということ。

3つ目は、将来を担うのは子供たちなので、具体的にどうやって子供たちを育てていくのか、私は個人的に淡路島に大学を誘致することがいいと思っているのだが、なにか夢のある形をもって先導するビジョンにしてほしいと思う。

（ビジョン委員）

ビジョン委員会は今年度で終わりという話があったが、来年度はもうやらないということか。

（事務局）

委嘱して分科会ごとで活動するというビジョン委員会の形は今年度で終わりである。まずは新しいビジョンができるので、多くの人にビジョンを知ってもらうために、ビジョン委員にも力を借りて広めていきたいと思っている。また、ビジョンは理念的なので、具体的に形にするときに、行政がやること、企業がやること、地域みんなですることを何か一つ考えられたらと思っている。そのためにはどういった仕組みを作っていったらいいのかというのを皆さんの意見も聞きながら考えていきたい。

(3) パラリンピック報告に対する質疑応答

(ビジョン委員)

パラリンピック中に最も嬉しかったことはなにか。

(清水委員)

自分の職場が行ってもいいと許可してくれたこと。許可がもらえなかったらこのような経験ができなかったので、職場の人の理解があったことが一番嬉しかった。大会に参加して嬉しかったことは、そこで出会った人。一生の宝だと思っている。

(事務局)

ボランティアが思っていたより少ないという事だったが、全体を見てボランティアが少ないことの影響はあったか。

(清水委員)

各ブースでシフトを組んでいたのですが、大会自体はスムーズにいったと思う。ただ、組織委員のまとめ役の人は、1年延期したことで人の入れ替えがあり、最初は何をしたらいいかわからない人も多くて大変だった。例えばお金のことで、交通費がいつ支払われるのかという不安もあった。

参加チームのところを言えば、事前合宿の予定がなくなったりしたようで、受け入れる側も受ける側も苦労があったと思う。

(亀井県民局長)

食事とかお住まいはどうされていたのか。昼食とかは取る時間とかあったのか。

(清水委員)

食事に関しては、幕張メッセでは食事チケットをもらってボランティア専用の昼食スペースは用意されていたが、時間がきまっているので食べ逃すことはあった。練習会場に関してはすべて実費で、コンビニなどで買って食べていた。交通費は1日1000円いただくが、ホテルから会場までの交通費で1000円は余裕で越えてしまうので、お金の部分と移動時間には苦労した。

以上